

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2020年9月1日
(No. 99)

2020
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (27)

新河岸川 (不老川の合流点)

東上線で新河岸駅から川越方面に向かい、程なく渡る小さな川が不老川。見かけの割に長さは 17.98km あり、新河岸川の支川の中では長さも流域面積も柳瀬川に次ぐ一級河川。源流は狭山丘陵北西の東京都瑞穂町で、入間・狭山・川越市などを流れる。水が河床に浸み込んで流れが途切れる「瀬切れ」を起こしやすく、「不老川 (ふろうがわ)」とは、毎年正月に水がないので年をとらず、「としとらず川」と呼ばれたのが由来。汚染度日本一が続いた時期があったが、流域市民・行政の努力で汚名返上した。写真の左側が不老川で、今年は梅雨の雨が多かったので水量がある。右後方は川越駅近くの市街地。(天田 眞)

6月7日(日)に身近な川の全国一斉調査に参加しました。エコシティ志木では1996年から参加し、今年2020年で25回になります。

調査対象は新河岸川(いろは橋・宮戸橋) 柳瀬川(志木大橋・栄橋) 荒川(秋ヶ瀬取水堰)

湧水(こもれびのこみち湧水) 排水路(郷土樋管(東中央幹線))の7ヶ所となります。

今年は新型コロナウイルスの関係で中学校の参加はなくスタッフ6名での実施となりました。測定作業は村山快哉堂の公園ベンチで行いました。測定はパックテストで水素イオン濃度:PH、電気伝導度:EC、化学的酸素消費量:COD、亜硝酸窒素:NO₂-N、アンモニア性窒素:NH₄-N、そしてクリーンメジャーで透視度を測りました。私の持ち場は荒川です。現在荒川堤内外は車が入れなく採水が困難な状況になっています。釣り人を入れなくするため、バリエードや川べりにはコンクリート躯体を投げ入れています。したがって岸辺からバケツを投げて採水するのが難しくなっています。そんなことで今回は荒川の水を田んぼに引いている井戸があるのでそこから汲み取ろうということになりました。井戸の水は一度コンクリートのいけすに溜めて田んぼに流しています。こ



[写真: 青木 明雄]

のいけすの水の臭いを嗅いでみると少々においます。いけすに溜まった水はダメです。その為、汲み上げ井戸から直接採水しなければなりません。太い水道管から放出される水の勢いは半端ではなく、その採水には少々てこずりますが何とかできました。今回の荒川の測定値を見ると特段例年と違いはありません。来年も、この汲み上げ井戸の採水でいいと思います。

(松田 勝正)

2020年度の測定結果と考察

6月7日(日) 午前実施

(天田 眞)

● 調査地点(採水地点): 7か所

新河岸川:いろは橋(柳瀬川合流前)・宮戸橋(同合流後)

柳瀬川:志木大橋・栄橋

荒川:秋ヶ瀬取水堰(堰上流の取水口の upstream)

湧水:いろは親水公園こもれびのこみち

東中央幹線(宗岡の雨水排水路):郷土樋管(いろは橋と宮戸橋の中間で新河岸川に流入)の堤外側

● 測定方法: 試水を1か所に集めて同時に測定

● 測定項目

気温・水温: 採水地点で測定

pH(水素イオン濃度): 0~14までの指数で、7が中性、

それより高いとアルカリ性、低いと酸性。

EC(電気伝導度): 水中の無機イオンの量を電氣的に測定する。不純物が多いと数値が高い。

COD(化学的酸素消費量): 酸化剤で有機物を酸化した時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物が多い。

NH₄-N(アンモニア性窒素)・NO₂-N(亜硝酸性窒素): 窒素を含んだ汚染源がアンモニアになり、これが水中で酸化され亜硝酸に、さらに酸化されると硝酸になる。

透視度: 透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。

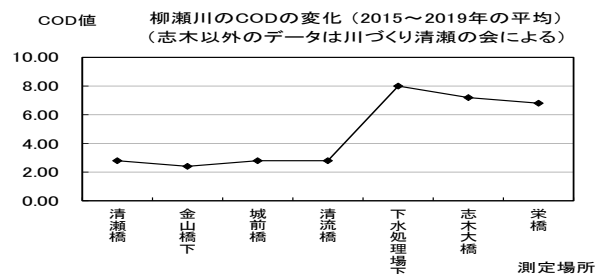
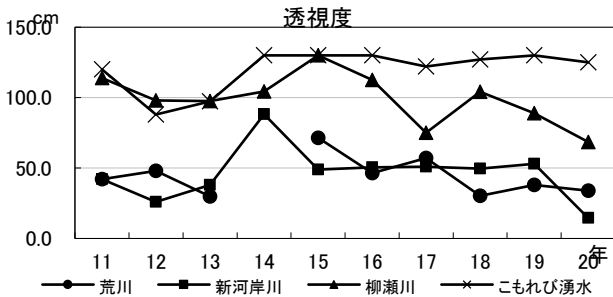
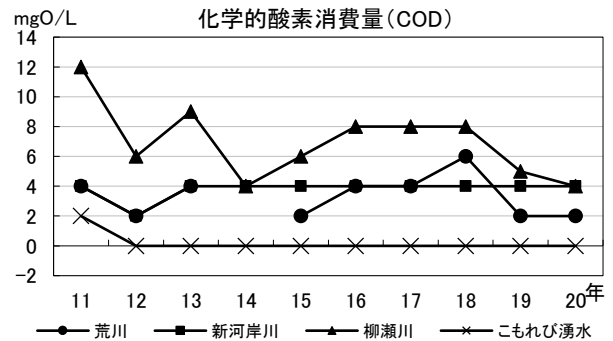
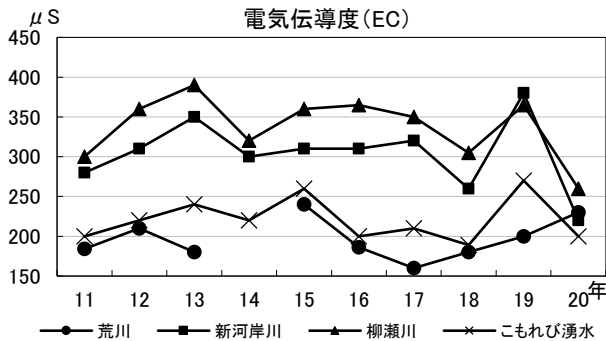
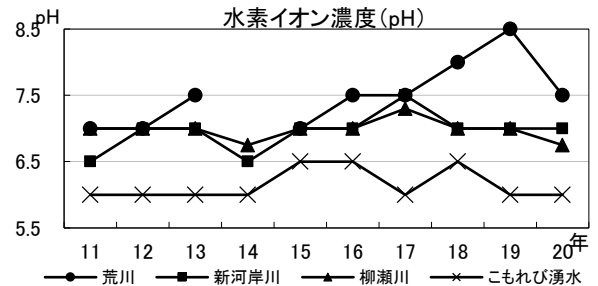
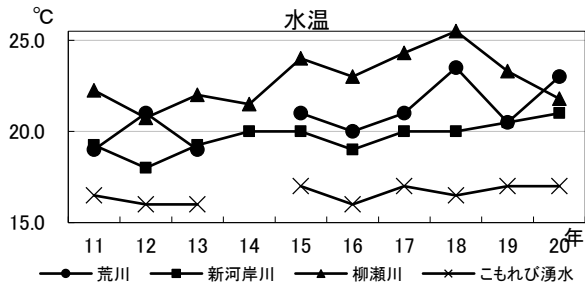
※pH、COD、NH₄-N、NO₂-Nはパックテスト

■ 2020年の測定結果と過去5年間(2015~2019)の平均値

測定項目 採水地点		水温 ℃		pH		EC μS/cm		COD mgO/L		NH ₄ -N mg/L		NO ₂ -N mg/L		透視度 cm	
		20年	平均	20年	平均	20年	平均	20年	平均	20年	平均	20年	平均	20年	平均
柳瀬川	志木大橋	21.5	24.0	6.5	7.1	260	349	4	7.0	0.2	0.73	0.05	0.23	74	102
	栄橋	22.0		7.0		260		4		0.5		0.05		63	
新河岸川いろは橋		21.0	19.9	7.0	7.1	220	316	4	4.0	0.5	0.48	0.05	0.06	15.5	51
新河岸川 宮戸橋		21.0	22.6	7.0	7.1	220	338	4	5.6	0.5	0.54	0.05	0.24	18.6	76
荒川秋ヶ瀬取水堰		23.0	21.2	7.5	7.7	230	193	2	3.6	0.2	0.32	0.02	0.02	34	49
こもれびのこみち湧水		17.0	16.7	6.0	6.3	200	226	0	0.0	0.2	0.12	0.005	0.004	125	130
東中央幹線		21.0	21.0	7.5	7.5	280	325	4	5.0	0.5	0.14	0.05	0.03	77	76

※ 各測定項目の左欄に2020年の値、右欄に過去5年間(2015~2019年)の平均値。柳瀬川は志木大橋・栄橋の平均とした。

■ 主な測定項目の主な採水地点別の変化 (2011～20年 柳瀬川は志木大橋と栄橋の平均、新河岸川はいろは橋)



■ 本年の特徴: 前夜に降雨があり、その影響があったかもしれない。

● 過去 10 年間の結果から見る主な測定項目ごとの傾向

水温: 柳瀬川は清瀬水再生センター(下水処理場)の放流水の影響で高いが、本年は低めだった。湧水は地下水の特徴で年間通してあまり変わらず、この時期としては河川水より低くなる。

pH: 湧水は武蔵野台地の湧水の特徴で酸性気味。新河岸川・柳瀬川は中性付近。荒川は以前からアルカリ性気味で、一昨年・昨年と強アルカリ性だったが、本年は以前の傾向に戻った。

EC: 柳瀬川と新河岸川がかなり低かったが、降雨の影響かもしれない。昨年は逆転していたが、柳瀬川が新河岸川より高いのは下水処理水の影響。湧水の値が必ずしも低くないのは湧水の特徴で、汚れが多いわけではない。

COD: 柳瀬川は下水処理場の影響で常に高かったが、本年は新河岸川と同じ4に下がった。降雨の影響があるかもしれないが昨年も低めだったので、下水処理水の値が下がってきたのなら歓迎すべきだが。

透視度: 新河岸川と柳瀬川がともに下がったのは降雨の影響か。ただし、透視度は測定者の視力に左右されるので、経年変化はあてにならない。

● 過去 10 年間の結果から見る河川・調査地点の水質の傾向

(本年は例年と多少違った傾向がみられたが、明らかに水質が変わってきたという判断はできない。)

柳瀬川【志木大橋・栄橋】: 透視度が高く、きれいな印象。EC・COD・チッソ分とも高く、見かけほど水質は良くない。柳瀬川は清瀬市の金山調節池付近が最も水質が良く、その下流で下水処理場の放流水が入るとぐっと悪くなる。

新河岸川上流【いろは橋】: 透視度が低く、汚れた印象。EC・CODは柳瀬川より低く、水質は見かけほど悪くない。

新河岸川下流【宮戸橋】: 概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。

荒川【秋ヶ瀬取水堰】: 東京都と埼玉県の上水道の原水ではあるが、特別に水質が良いということはない。

こもれびのこみち湧水: 透視度は最高、COD・チッソ分は最低で非常に良好な水質。ECが高いのは湧水の特徴。

東中央幹線: 今回で3回目。現地で見ると汚れた印象があるが、流入先の新河岸川宮戸橋の数値に近い。

柳瀬川水族館（柳瀬川の生きもの調査）

畠 光男

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大したことから、今年のエコシティ志木の活動は3月から休止を余儀なくされ、柳瀬川水族館もどうなるか懸念されましたが、予定通り初回は6月20日（土）に開催することができました。

ただ、水槽は間隔を離して展示し、会員はマスクを着用して説明するなど感染防止対策を図りました。

今年の魚捕りは3回とも不調でした。河川敷工事の影響か昨年に比べ川岸の草むらが少なく感じられました。また雨量が多かったためか例年より水量が多く、流れも速いようで、川底に藻が付きにくく魚の棲みかになりにくかったのではと思われます。

捕れた数は少なかったものの、種類はそれなりに確保でき何とか水族館として展示することが出来ました。魚類では、ヌマチチブ、ウキゴリ、シマドジョウ、ナマズ、コクチバス、マハゼ、モツゴ、コイ（幼魚）、タイリクバラタナゴ（幼魚）、カダヤシ、オイカワ（釣り人から譲り受けたもの）などを展示しました。

外出自粛が続いたことで見学者が減るのではと心配しましたが、運動不足解消の為か、散歩、ウォーキング、ジョギング、自転車等で土手を通る人は多く、興味深そうに立ち寄る家族連れや、懐かしそうに水槽を覗く年配の方々などで盛況でした。

毎回朝早くから来てくれる、柳瀬川水族館のファンでもある小学5年生の男子は、7月・8月は友達2人を誘ってやってきました。川岸で魚捕りをしたり、少し飽きるとカブトムシ探しをしたりと楽しんでいました。

また、男子高校生（3年生）が、ホームページを見て参加してくれました。7月は見ていただけでしたが、8月是一緒に川に入り魚捕りを楽しみ満足した様子でした。彼も購入しましたが、「志木生きもの図鑑」に関心を示す人も多く、期間中だけで7冊売れました。



[写真：青木 明雄]

カヤネズミ原っぱでの外来植物駆除

興村 幾子

2020 年のカヤネズミ原っぱでの外来植物駆除は昨年より 1 ヶ月早く 4 月・5 月・6 月・7 月・8 月の 5 か月で実施する予定で張り切っておりました。ところが想定外の新型コロナ発生による緊急事態宣言により 4 月・5 月の作業は中止となり、6 月 6 日に第 1 回の作業行うことができました。

今年も昨年同様上流側の富士下橋に近い方から下流に向かって抜き取り作業をおこないました。今年の目標は 1 本も残さずローラー作戦で作業することです。2 回目も 1 回目で作業したところを見直しながらかき漏れをなくして進めていきました。

7 月からはアレチウリが樹木や草を覆っていたのでそれを取り除きながらの作業となりました。

今年は毎回カヤネズミ巢が発見されました。新しいものや少し古いものもありましたが、去年は作業中には発見できなかったのが嬉しいことです。

参加者は毎回 7、8 人です。今年は新型コロナの関係で会員のみでした。

7 月 21 日には埼玉県水環境科の方が 3 名参加されました。

今年は暑い時期に加えてマスク着用もあり、かなり大変な作業となりました。

私は昨年から参加しましたが、新座市在住のため、志木市の地理には疎くカヤネズミ原っぱのことも知らず現場も見えていなかったのが装備が不備だったらしく 1 回目の後、家に帰ってみると草にかぶれたのか両方の肘から手首が真っ赤になっていました。また、オオブタクサが見分けられなかったりと失敗ばかりでしたが、自分の背丈の倍ほどの草むらに入り抜いたオオブタクサをハンマー投げのように投げたりと無心で作業をしていると気分も爽快です。珍しい植物や昆虫のことも教えていただいたりして楽しんでいます。

参加の動機は少しあやふやですが人員の 1 人としてこれから続けて行こうと思っています。

5 年 10 年と続けて、カヤネズミ原っぱがカヤネズミの住みやすい場所となることを願っています。



[写真：青木 明雄]

生きものの調査コース

本町及び柏町の

自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



今回から、毎月行っている「志木の生きもの調査」のコースの緑地をご紹介します。最初は、本町と柏町周辺です。地図上にある柳瀬川駅(S)からスタートして、A～Fの緑地を志木駅まで歩いていきます。柳瀬川駅から志木駅に向かって線路沿いに歩き、急坂となる手前を左に曲がります。左に曲がって少し行った右側に広がる緑の森が「柏町ふれあいの森(A)」です。

火止用水の水車がありました。右に曲がり、柏通りの坂を上ったところで中道と交差します。東上線の向こうの愛宕通りで分水した野火止用水がこの中道を通り、館氷川神社北側へと流れていま



柏町ふれあいの森

ここは、「西原の森」と同じように、台地の縁にある斜面ですが、湧水は出ていません。樹木が多く、日差しが地面に届きませんが、いろいろな野草を見ることができます。

「柏町ふれあいの森」を過ぎて、ユリノキ通りを渡り、1本奥の通りの柏通りに出ます。この柏通りにぶつかった左手には、柏通りを流れてきた野



館氷川神社

した。柏通りを更に東に進むと「館氷川神社(B)」の鳥居があります。以前は、鎮守の森となっていて、大きな樹木に囲まれ、昼でも薄暗い神社でしたが、数年前に大木は全て切り倒され、周囲から社殿がむき出しとなってしまいました。社殿の裏側にも沢山の樹木がありましたが、今は全て切り株となっています。地面は陽当たりが良くなり、春には、沢山の野草が花を咲かせています。少しずつ新しい自然の緑地になってくれればと願っています。社殿の西側には、児童公園があり、この脇の道路の野火止用水路跡には、暗渠のコンクリート板が続いています。道路を隔てた先にも用水路

跡が続いています。館氷川神社裏のこの通りには行屋稲荷神社があります。神社前が駐車場になるまでは、この道路から赤い鳥居が沢山並び、周囲が緑に囲まれていました。更に進んだ丁字路には、広い緑と大きな樹木が沢山ある民家があります。脇を通って志木市立埋蔵文化財保管センター裏側の住宅地を抜けて、東京電力志木変電所を過ぎると、広い空間があります。最近まで畑となっていました、住宅地としての開発が始まりました。この辺りは、武蔵野台地から緩い斜面となっていて、宝幢寺西側沿いの通りから更に1本西側に入った通りです。この通りを進んで下りかけたあたりから右に曲がり、宝幢寺沿いの通りに出ます。



宝幢寺沿いの道路（右の宝幢寺、左は畑）
宝幢寺の裏には市民農園があります。更にその先には、大きな農家が2軒あり、広い農地が敷地内にあります。

この通りを渡り、農家の横の細い道を進むと、坂を下って「かしわ公園」に入ります。



かしわ公園

この「かしわ公園」も、台地と低地の斜面にあります。元々かなりの湧水が出ていたところですが、今は、公園の下を流れていて、排水溝の網蓋からは、勢いのある水の音が聞こえます。公園の隣に

も農地が広がり、志木の杜手前の道路まで緑が広がっています。この後、反対側の出口からでて市民農園の緑を横に宝幢寺へ向かいます。



宝幢寺

宝幢寺ではヒマラヤスギ・ヒノキ・イチヨウ等の大きな樹木やタラヨウ・ムクロジ等市内では珍しい樹木も見ることができ、貴重な緑地にもなっています。このあとは、志木小学校の横を通り本町通りの上の水車跡の交差点過ぎ、先の信号で右に折れ、慶応通りに入り、その先の交差点を左に曲がると「直路交通公園」があります。ここは、桜の木その他大きな木が遊ぶ子供たちに涼しげな木陰を提供しています。珍しい木としては、白樺の木があります。毎春ここでお花見をしています、残念ながら今年はできませんでした。この公園も台地が張り出したところにあり、低地からは「ごんべい山」と呼ばれているあたりです。低地の道路に降りて、交差点を過ぎ少し坂を上った所で歩行者道路と交差します。ここを右に曲がっていくと「けいおうふれあいの森」があります。タヌキが棲んでいたことから、「ぼんぼこ公園」とも呼ばれています。丁度斜面の途中で道が走っていますが、この道は、野火止用水路跡です。次は志木駅です



けいおうふれあいの森

志木の生きもの調査

林 秀樹

～西原ふれあい第三公園周辺～ 7月13日(月)

参加者：9名

公園中央広場に集合し、西原の森周辺の調査・観察。
コナラの幹にツマキシヤチホコの終齢幼虫がいま



[写真：青木 明雄]

本年2月に、構想から5年を経て「志木生きもの図鑑」が完成しました。この図鑑を作成するにあたり、生きものの市内での分布状況の把握、会員の生きものに対する知識の向上を目的として、市内をいくつかの地域に分けて「生きもの調査」を行ってきました。今年も、市内のいくつかの地域でこの調査を継続しています。このような調査は一度だけで終了するのではなく、年を経ながらも断続的に行うことにより、在来種の生息状況の変化、外来種の出現状況など、生きものを通して自然環境の変化を感じることができます。また、このような調査結果をまとめておくと、今後の市内の自然環境を考えるうえでの参考になるやもしれません。調査には、生きものにとっても詳しい人と、そうでない人など、様々な人が加わり、「生きもの調査」をお題目にしながら野外活動を楽しんでいます。今まで参加されたことのない方も、ぜひ一度参加してみませんか。もちろん、こんなコロナ禍での調査ですので、屋外と云えども皆マスクを着用し、ソーシャル・ディスタンスを意識しながら行動しています。

～新河岸川周辺～ 6月15日(月) 参加者：9名

旧村山快哉堂前に集合し、新河岸川左岸を中心に調査・観察。



[写真：青木 明雄]

在来種のチチコグサと、外来種のチチコグサモドキ、ウラジロチチコグサの3種を同時に観察できる場所があり、その違いを自分の目で区別することができました。花が咲いていればその形状で区別できますが、葉だけでもチチコグサの葉は細く、ウラジロチチコグサの葉裏は白いことから区別できます。外来種と云えば、キマダラカメムシの成虫や幼虫が何匹も出現し、イチヨウの葉に産み付けられていた黄色い卵塊もキマダラカメムシの卵でした。

～いろは親水公園こもれびのこみち周辺～

8月24日(月) 参加者：9名

旧村山快哉堂前に集合し、こもれびのこみち周辺の調査・観察。

今回のトビックスはネナシカズラでしょう。最初は自らの根があるのですが、つるを出して他の植物に巻き付き寄生すると、つるの下は根が枯れてしまうそうです。まるでヒモのような生活で、うらやましいと思う人もいないかもしれませんね。



[写真：青木 明雄]

① トウキョウヒメハンミョウ

7月13日 西原ふれあい第三公園 [林 秀樹]

② エゾカタビロオサムシ

8月6日 富士見市榎町 [林 秀樹]

③ オニドコロの花

7月21日 館氷川神社 [庭野 恵子]

④ ガガイモの花

7月21日 新河岸川河川敷 [庭野 恵子]

⑤ サトキマダラヒカゲ (幼虫と成虫)

7月上旬～中旬ころ、西原斜面林のササ刈作業でサトキマダラヒカゲ幼虫が大量に見つかり、15頭ほど飼育し、8月上～中旬に羽化する。[天田 眞]

⑥ オオミスジコウガイビル

7月14日夜10時頃の雨上がりに、西原斜面林脇の東上線沿い坂道に、オオミスジコウガイビルが10匹ほど現れる [天田 いづみ]

⑦ カラスウリの花

8月12日夜8時頃西原の森にて [青木 明雄]



① トウキョウヒメハンミョウ



② エゾカタビロオサムシ



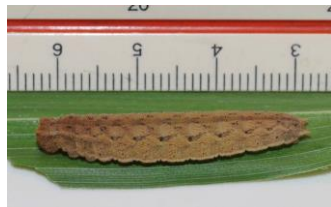
③ オニドコロの花



④ ガガイモの花



成虫



幼虫

⑤ サトキマダラヒカゲ



⑥ オオミスジコウガイビル



⑦ カラスウリの花

会員紹介 庭野 恵子さん

～お家も緑がいっぱいです～

志木市在住 40 年の 2017 年入会以来、自然観察会、ぶらり散歩、外来種調査、生きもの調査等参加してきましたが、なによりも、「志木生きもの図鑑」の勉強会やレビューに参加し、先輩方の驚くべき知識に触れたことは、本当にラッキーなことでした。

里山の手入れ、河川敷での外来植物駆除等にも参加しています。何よりも、定期的に体を動かせること、グループの方々とお会いできることが魅力なのですが、さらに、季節折々の樹木、野草、昆虫、野鳥に会える楽しみもあります。作業中でも、眺めたり写真を撮ったり、名前を覚えてもらったりしています。タマムシ、コゲラ、カヤネズミの巣や、センダンやコブシの実、ガガイモの花に大興奮したり、クワの実やセリを味見したりの至福の時間です。名前の由来等知るのが大好きで、家では、インターネットで根掘り葉掘り調べてしまいます。学生の頃から、万葉集や新古今、芭蕉等が好きでしたが、今、現実の自然に触れながら、思い出したように読む和歌や俳句は一層リアルに感じられます。

出身は、新潟市の水田地帯で、子供の頃は田植えの手伝い等もしましたが、従兄弟達と、アゲハやセミの幼虫を呆れるほど集めて、叱られた記憶があります。

縁あって英米の出版社の東京事務所に長く勤務しました。

後半は自宅で海外本社と連絡を取りながらのマーケティングの仕事でしたので、ウィズコロナの状況下、息子達が在宅勤務で幼い子供達と過ごす時間が増えたことを、素直に喜んでおります。時代が一気に進むような、原点に戻るような昨今、第二の故郷、志木市の身近な自然やコミュニティが守られていくことを願っています。



☆会員状況

2020年更新済（8月20日現在）

正会員（個人） 41（内、新入会員1）

正会員（団体） 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2020年度の年会費は、郵便振替（振替番号 00510-4-13225）にて納入をお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体

ネットワーク

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティー協議会

志木市社会福祉協議会

認定 NPO 法人さいたま NPO センター

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

森の工作室

青木 明雄

初めてのことでありますが、西原ふれあい第三公園で、自然のものを材料にしての工作をしました。

事の発端は、どんぐりが大分集まったので、これをいろいろなイベントで利用したいということで考えたのですが、もともと自然の材料を使って何か作ってみたいと思っていましたので、まずは西原ふれあい第三公園で行ってみました。できたものを「カヤネズミの巣をさがそう」のゲームコーナーで使おうと思っています。また、外部のイベントへの出展の際に、どんぐり工作コーナーを設けたり、見学者へのプレゼント等に展開ができればと考えています。9月にも追加作成を行いたいと思います。



竹で作った水鉄砲



竹トンボ

種名の後ろが「……メイガ」となっている蛾が多数いますが、図鑑では、メイガと付く種は、メイガ科とツトガ科の両方に分類されています。古い図鑑では全てメイガ科になっていますが、現在は、メイガ科に含まれていたツトガ亜科が独立してツトガ科となっています。

今回紹介するのは、ツトガ科の中で種名の後ろが「……ノメイガ」となっている蛾です。その多くの成虫は小さな蛾（前翅長が10mm～15mm位）で、上から見ると三角形になるように翅をたたみ、触覚を背中の上に揃える様にして止まります。幼虫はどれも似たような細長い形で、食草の葉を綴り合せた中に隠れているものが多いです。

クワノメイガの幼虫は、クワの葉を折り曲げて中に隠れ、葉の表面を残して食べます。成虫の翅には複雑な模様があります。

シロオビノメイガの幼虫はホウレンソウなどヒユ科の草を綴り合せ中に隠れ、成虫は止まった時

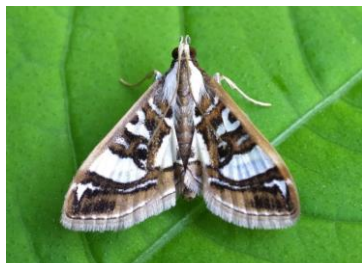
に白い帯が直線になります。

マメノメイガの幼虫はダイズ・アズキ・インゲンなどの莢の中に入り若い豆を食べます。成虫はこの仲間には珍しく、翅を大きく広げて止まります。

マエアカスカシノメイガの幼虫はネズミモチなどモクセイ科の葉を食べ、成虫の翅は白く半透明で前翅の縁が赤褐色です。

ウドノメイガの幼虫はウドやアシタバなどの葉や花に糸を吐き集団で食い荒らします。ヨスジノメイガの幼虫はムラサキシキブの新葉を糸で綴り食べます。どちらも成虫は薄い黄褐色で光沢があります。

ツゲノメイガはツゲやボックスウッドの生垣に大発生することがあり、成虫は大き目（前翅長22mm位）です。



クワノメイガ



クワノメイガ幼虫



シロオビノメイガ



マメノメイガ



マエアカスカシノメイガ



ウドノメイガ



ヨスジノメイガ



ヨスジノメイガ幼虫



ツゲノメイガ

巨 樹 と の 出 会 い

《 2 》 志木市の巨樹たち・・・その4

本間 敏文

次に、宝幢寺の本堂の側にあります「タラヨウ」の巨樹を見に行きましょう。このタラヨウの巨樹は幹周り3.15mと巨樹としては小ぶりですが、埼玉県で環境省に登録されているのは1本だけです。正に志木のこの樹です。

さて、タラヨウの葉には特徴があります。葉に文字を書くと黒く浮き上がります。これはタンニンの化学反応による現象のようです。戦国時代には、紙の代用品として、タラヨウの葉を便りやメモ代わりに使っていました。ということで、現在私たちが使用している「はがき」の語源になったという説もあります。1996年には、「郵便局の木」

に制定され、この葉に切手を貼って投函すれば、届けてくれるようです。

さて、タラヨウの横にあります「ヒマラヤスギ」を見てみましょう。このヒマラヤスギは幹周り3.97mで、特に欠損もなく元気な巨樹です。ところで、ヒマラヤスギの巨樹は全国的にも少なく、このヒマラヤスギは大きい方です。

さて、埼玉県で環境省に登録されているヒマラヤスギの巨樹は2本しかなく、この2本は幹周りが3.1mです。従いまして、埼玉県でのヒマラヤスギの巨樹では、この志木の樹がナンバーワンとなります。(環境省には未登録で、現在登録申請中)



【タラヨウ】



【ヒマラヤスギ】

編集後記

長い梅雨が明けた後は、猛暑が続き、コロナ感染対策と熱中症対策を行いながらの活動となりました。この時期の活動としては、柳瀬川水族館や外来植物駆除があります。今回の通信も、イベントを網羅的に伝えるのではなく、お届けするイベントを絞り、1ページ単位の記事とさせていただきます。(青木明雄)

エコシティ志木通信

第99号 2020年9月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com